

## 特集

## 防災に向き合う

九月一日は「防災の日」です。地震や台風などの災害は、日頃から対策を講じておくことで被害を最小限に抑えることができます。今月号の特集では、災害に備えて、家庭でできる対策について紹介いたします。今回の特集を機に家族や地域で話し合い、防災対策を行ってください。

## 家庭で備える

災害への対策として一番大切なのは、災害から自分や家族の命と財産を守ることです。そのためには、家族全員が防災に向き合い、協力し合う必要があります。

## 家族防災会議

家の中に危険な場所はないか、災害発生時の連絡方法はどうか、災害で被災した場合を具体的に想像しながら家族で話し合ってみてください。また、会議は定期的開催することで、食料、備蓄物資の点検などが習慣化できます。

## ○家族会議のテーマ案

- ・住んでいる地域で過去に起こった災害や土地の成り立ち
- ・災害発生時に家族が離れていた場合の安否確認方法
- ・災害発生時の身の守り方
- ・災害時に必要になるものや備蓄
- ・最寄りの避難場所の確認や避難方法
- ・家具の転倒防止措置の状況
- ・備蓄品の使用期限の確認

## 無料耐震診断

昭和五十六年五月三十一日以前に着工された木造住宅を対象に無料耐震診断の申込みを受け付けています。専門の診断員を派遣し、一時間程度の診断を行います。後日、結果報告書をお渡しするとともに、耐震改修を行った場合の概算工事費、一般的な補強のアドバイスをしています。受付順に診断を行いますので、お早めにお申し込みください。▼申込み・問合せ 地域振興課 地域振興係 ☎28・2463

## 防災グッズの準備

災害発生時の状況に応じて、必要な防災グッズを用意します。

## 災害発生し帰宅・避難まで

災害は、いつどこで発生するか分かりません。外出先で被災した場合にも備えてください。小さくて持ち歩ける備蓄品をまとめてポーチなどの袋に入れて、鞆の片隅に携帯します。

- 携帯電話やスマートフォンなどの充電器、予備バッテリー
- 携帯ライト
- 救急用品（ばんそうこうや消毒薬など簡単な治療用品、胃薬などの常備薬など）

## 避難後3日間

自宅からやむを得ず避難する場合には、緊急的に持ち出す非常持ち出し品を用意します。リュックサックなどの袋に入れていつでも持ち出せるようにします。二泊三日程度の避難生活に必要な物資を選び、個人で持ち運べる大きさ、重さにまとめます。

- 貴重品（現金、免許証、保険証、預金通帳、印鑑、家や車の予備キーなど）
- 携帯電話やスマートフォンなどの充電器、予備バッテリー
- 携帯ラジオ
- 飲料水・非常食（栄養補助食品など調理不要なもの）
- 医療用品（ばんそうこうや消毒薬、お薬手帳、持病の薬など）
- 生活用品（タオル、毛布、手袋、着替えなど）

## 大規模災害時の長期備蓄

大規模災害が発生してライフラインの供給が止まった場合、外部からの支援が届くまでの間を自力で生活するために、各家庭でも食料などを備えておかなければなりません。